ISCA

相続・事業承継コンサルティングアワード2020開催

10名を表彰、12名に協会認定称号授与

一般社団法人相続・事業承継コンサルティング協会（ISCA、石野毅代表理事）は8月20日午後1時半から、グランフロント大阪で相続・事業承継コンサルティングアワード2020を開催した。今回はソーシャルディスタンスを確保した会場参加と、Zoomによるオンライン参加を双方向で結ぶハイブリッド形式で催された。アワードでは、同協会が主催する研究会の受講生のうち、保険業績で顕著な業績を挙げ、協会活動に貢献したメンバーを表彰。また、薬師寺録事（潮音寺副住職）村上定運氏による基調講演、記念撮影が行われた。

会場、オンラインの両方で

石野代表理事

石野代表理事が登壇し、今回の表彰から、クライアントにしっかり寄り添って問題を解決するコンサルティングをさらに進化させた、協会の中心コンセプトである「ナビゲーター」の文言を賞の名称に取り入れたこと、また実績とコンサルティングスキルに見合った栄誉の証しとして、新たに「シニアコンサルタント」「エグゼクティブコンサルタント」の称号を付与することを発表。そして、「我々は一人ではなく仲間がいる。受賞者の方々には協会のリーダー役になっていただき、メンバー同士、力を合わせながらノウハウを共有してみんなで成功し、成長し、永続する組織をつくっていきたい」と述べた。

続いて受賞者の表彰となった。

■アワード受賞

●最優秀ナビゲーター賞
高柳達哉氏

●優秀ナビゲーター賞
升田良太郎氏（3回目）
山﨑忠寛氏（2回目）
楠本俊憲氏（同）
宮下寛忠氏▽兵頭勝正氏▽安田修氏▽河井直也氏▽小沼憲子氏▽白鳥貴志氏

■協会認定称号授与

●シニアコンサルタント
中川亮介氏▽山﨑忠寛氏▽楠本俊憲氏

●エグゼクティブコンサルタント
百木健氏▽寺畑誠二氏▽井出裕之氏▽新井厚至氏▽三並新悟氏▽酒井太輔氏▽岡田聡氏▽高柳達哉氏▽升田良太郎氏

【受賞理由とコメント】

高柳氏：定例会で発表した不動産オーナーの相続対策について、顧客の課題と解決策を分かりやすく解説し、協会メンバーのコラボにより最適な相続対策が可能となることを強く訴えた。第1期生として定例会のほか、商品研究発表や関東地区勉強会での幹事役など長年協会へ貢献し続けており、今回の受賞となった。

高柳氏は、「相続案件は一人で取り組むことはできない。営業職は皆、自社商品の販売をスタートとしているが、それでは部分最適になりお客様のお役に立っているか甚だ疑問だ。協会ではお客様の抱えている問題を解決したいという同じ志を持った人が集まっており、自分より力があり、実績もすごい方がたくさんいる。私一人では大したことはできなかったが、メンバーと連携することで自分の力が2倍にも3倍にもなり、お客様の問題を解決できているのだということを強く実感した」とコメントした。

【受賞理由（以下同）】

升田氏：事業承継実践会において、メンバーにとって有益な情報を提供。また協会のスローガンである、一人でやらずにみんなで成功するということも体現、協会ネットワークを最大限活用し、成果に繋げている。さらに、中四国地区勉強会において幹事役として中心的役割を果たし、協会に大きく貢献している。

山﨑氏：定例会で認知症対策として家族信託が活用した事例を発表し、具体的な相続のコンサルティングをする上で、認知症によるリスクがどのような問題に発展するのか、その詳細と対策を分かりやすく解説した。また、協会メンバーがお客様の問題解決の中心的役割を果たしながら士業と連携することの重要性を伝えた。さらに協会の士業ネットワークづくりにも貢献している。

楠本氏：定例会において20年にわたり、生命保険と連動した生前贈与を相続対策の中心に据えて顧客に伝え続けていることを、自らの経験を交えて説得力のある形で伝えた。また、証券業界出身という経験から、相続のコンサルティングを金融資産全体で見ていくという手法を提供。中四国地区勉強会の活動でもメンバーの個別案件に適宜アドバイスを行うなど、指導的役割を果たしている。

村上定運薬師寺録事が基調講演

第2部では、法相宗大本山薬師寺録事、村上定運氏が「心のあり方～諦める練習～」と題して基調講演を行った。村上氏は奈良の薬師寺で修学旅行生など年間約3万人に説法を行う人気の僧侶だ。

まず諸行無常の例えとして、自身の13年前の写真と現在を比べ、30㌔増量を果たし見る影もないと自虐たっぷりなトークに、会場はどっと沸いた。

場が和んだところで村上氏は、受賞者の挨拶にあった「人に寄り添う」という言葉を取り上げ、薬師寺のご本尊についてに、会場はどっと沸いた。

村上定運氏

解説した。薬師寺は天武天皇が皇后（のちの持統天皇）の病気平癒を願って発願し、天皇崩御の後、持統天皇が造営。戦国時代にお堂や塔は焼失したが、「薬師三尊像」は光背を焼失するも、その姿を今に残している。「薬師三尊像は最も美しい銅の彫刻と言われていま す。命を奪う武器や心を汚すお金ではなく、人の心を救ってくれる仏様を作ることで、一人でも多くの人の心に寄り添うことができるとお考えになったのではないでしょうか。ぜひ薬師寺にお越しいただき、その心意気を感じていただきたい」と拝観を呼び掛けた。

また薬師寺の宗派、法相宗の教え『唯識』に触れ、「心は体のすべてに現れる。嫌だ、つまらないと思うと、面倒……面が倒れる。すると顔に影ができ、どんどん暗くなる。反対に顔を上げれば光が当たり、面が白くなる……面白いという状況です。体をコントロールしているのは自分、逆に他人の体は動かせません。身を縮めてゆがんでしまった心をまっすぐに修正する。それを修行と言います」と、心と体の関係と修行の大切さを説いた。

村上氏は昨年、茨城県の薬師寺東関東別院潮音寺の副住職に就いた体験から、「仏教で『諦める』は真理を見極めるという意味があります。薬師寺から遠く離れ目の前が真っ暗になりましたが、与えられた場所で自分ができることは何なのかを見極めなければならない。それこそが諦めるという真理だと気付きました」と述べた。